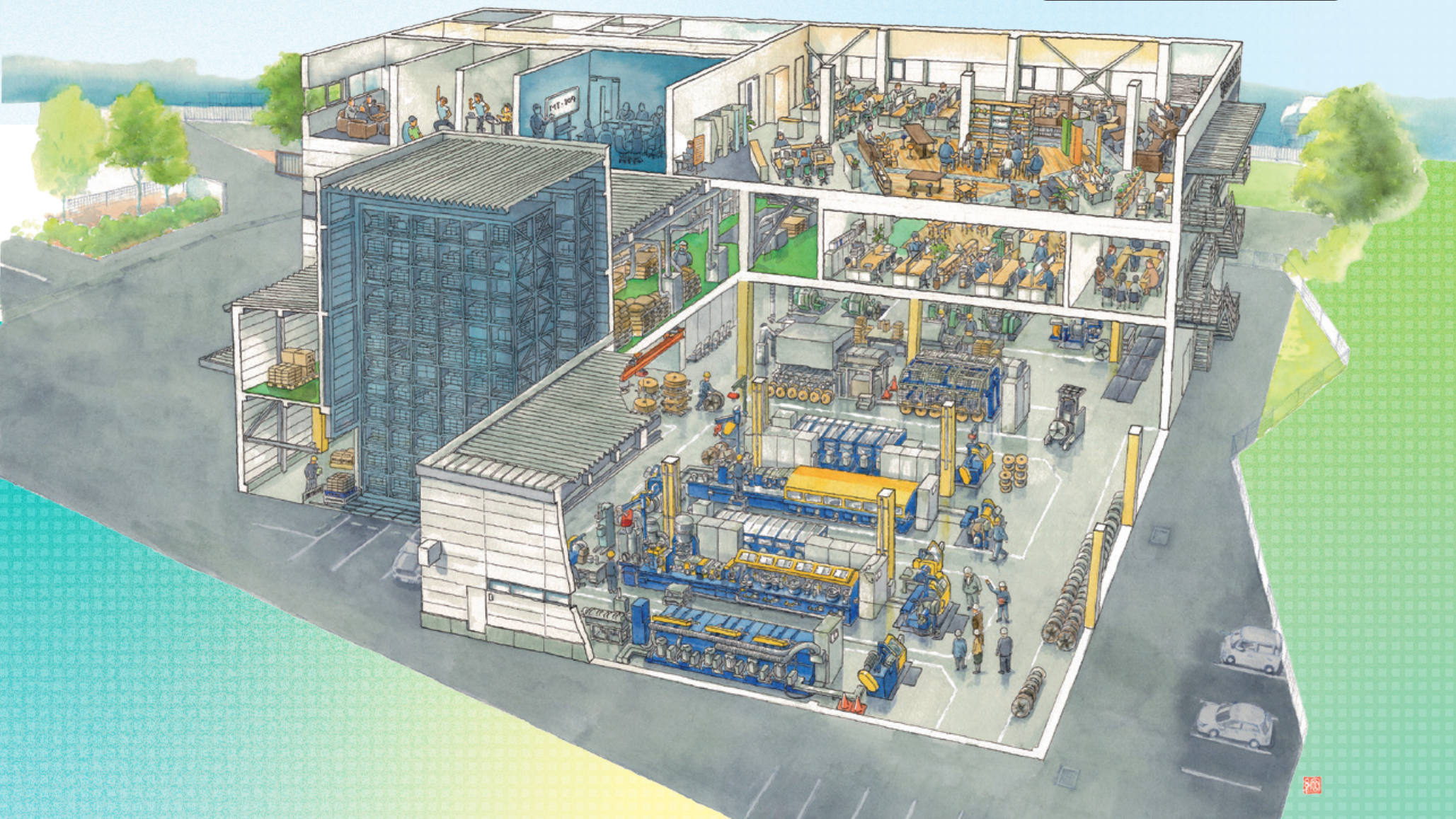




BUSINESS REPORT

第78期 年次報告書

2024年4月1日～2025年3月31日



TOP INTERVIEW

堅実な戦略と積極投資で不透明な情勢を乗り越え、飛躍への礎を着実に築く
セグメント別業績概況

NEW TOPICS

持続可能な社会の実現を目指した取り組み

会社概要、株式情報、役員の状況、配当方針・実績、株主メモ

● 財政状態

(単位：百万円)			
第77期 (2024/3)		第78期 (2025/3)	
資産合計	11,575	資産合計	11,911
有形固定資産	3,794	有形固定資産	3,652
無形固定資産	24	無形固定資産	45
投資その他の資産	575	投資その他の資産	603
流動資産	7,181	流動資産	7,610
固定資産	4,393	固定資産	4,301
負債純資産合計	11,575	負債純資産合計	11,911
流動負債	2,903	流動負債	3,021
固定負債	1,412	固定負債	1,234
負債	4,316	負債	4,256
純資産	7,259	純資産	7,654

業績のポイント

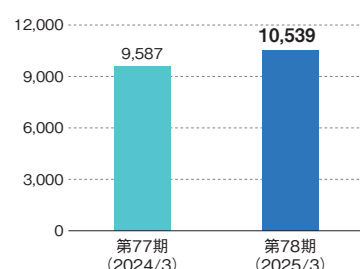
当社グループは、每期、安定的な利益を継続的に確保するとともに、株主利益の重視と経営の効率化の観点から、「売上高」「売上総利益」「営業利益」「経常利益」を重要な指標として位置づけ、景気に左右されない経営基盤の構築を目指しております。

2025年3月期の連結業績の目標値は、売上高9,497百万円、売上総利益2,472百万円、営業利益296百万円、経常利益305百万円としておりました。

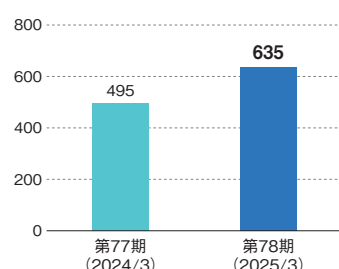
売上高の達成率は、111.0%となり、目標値を上回りました。工事施工事業及び環境関連装置事業の売上総利益率が計画より向上したことに加え、諸経費の圧縮に努めたことにより、損益面の達成率は、売上総利益113.5%、営業利益214.2%、経常利益211.3%となりました。

● 経営成績

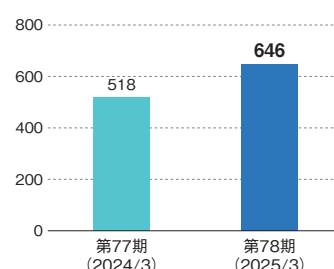
売上高 (単位：百万円)



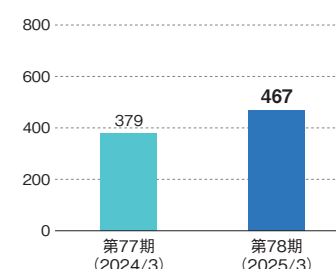
営業利益 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



TOP INTERVIEW

堅実な戦略と積極投資で
不透明な情勢を乗り切り、
飛躍への礎を着実に築く

代表取締役社長
西川 誉



株主の皆様には、平素より当社グループの事業につきまして温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

ここに、第78期(2025年3月期)の業績ならびに事業の概況、今後の取り組みについてご報告させていただきます。

Q 第78期(2025年3月期)の事業環境と業績についてお聞かせください。

依然として不安定な国際情勢、アメリカ政権の関税措置など、日本の経済、産業の先行きが不透明な中、当社は景気に左右されない堅実な経営を

Q 加古川本社・本社工場の移転から1年。どのような変化がありましたか。

この1年は、世界が大きく変化した年でした。アメリカの新政権は世界経済を困惑させ、各地の紛争は依然として継続し、予測不可能な近未来が訪

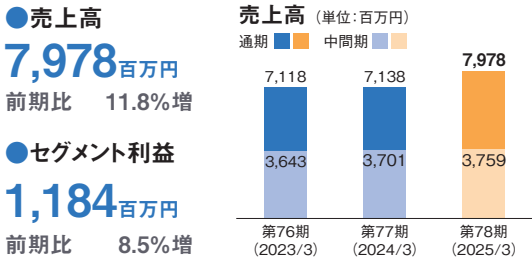
進めてまいりました。2020年のコロナ禍に喫した減収減益を、研究・技術・営業の三位一体の体制で乗り越え、着実に事業を拡大できている手応えを感じております。当連結会計年度の売上高は、10,539百万円(前連結会計年度比9.9%増)、営業利益は635百万円(同28.4%増)、経常利益は646百万円(同24.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は467百万円(同23.1%増)となりました。

足元の経営環境においては、鉄鋼業界における構造改革の影響を引き続き注視する必要がありますが、自動車産業、造船業の回復基調が当社業績を下支えしております。ただし一方で、国際競争の激化や人材不足といった課題は依然として残されております。建設業も人手不足・高齢化・長時間労働といった構造的問題に直面しており、いずれも鉄鋼業界への影響を注視する必要があります。

そのような中で、この実績を達成できたのは、ステークホルダーの皆様にご信頼いただいたことや、技術革新の推進、労働環境の改善、人材育成といった多面的な取り組みが功を奏したものと実感しております。

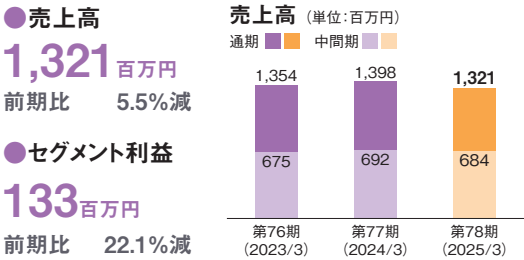
セグメント別業績概況

工事施工



積極的な提案型営業と高度技術の提供、徹底したコスト削減の実行により、受注拡大に努めました結果、プラズマ粉体肉盛工事の受注は減少しましたが、粉碎ミル工事、連続鑄造ロール肉盛工事、鉄鋼関連の保全工事の受注が増加したことにより、売上高は7,978百万円(前連結会計年度比11.8%増)、セグメント利益は1,184百万円(同8.5%増)となりました。

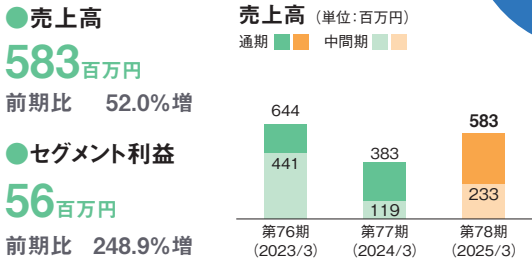
溶接材料



直販体制の優位性を活かし、新規顧客の開拓と既存顧客の更なる深耕による販売力強化に努めました。当社の主力でありますフラックス入りワイヤなどの製品の売上高は539百万円(前連結会計年度比0.2%減)、また、商品のアーク溶接棒、TIG・MIGなどの溶接材料の売上高は782百万円(同8.8%減)となり、溶接材料の合計売上高は1,321百万円(同5.5%減)、セグメント利益は133百万円(同22.1%減)となりました。

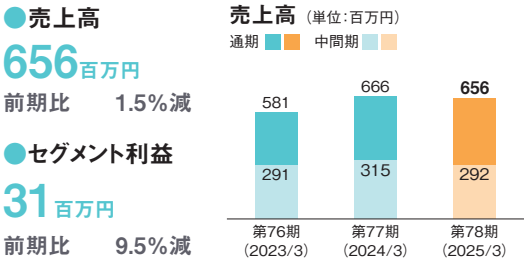
売上高
構成比

環境関連装置



自動車産業用粗材冷却装置、自動車産業用試験装置・検査装置の受注が増加したことにより、売上高は583百万円(前連結会計年度比52.0%増)、セグメント利益は56百万円(同248.9%増)となりました。

その他



自動車関連のアルミダイカストマシーン用部品の受注が減少したことにより、売上高は656百万円(前連結会計年度比1.5%減)、セグメント利益は31百万円(同9.5%減)となりました。

れております。こうした状況下で当社は、事業所の移転を通じ、お客様や協力会社様からこれまで以上の信頼を得ることができました。さらにその信頼が、事業拡大や人材確保といった多角的メリットの創出につながっていると実感しております。

また、移転を機に人材採用に力を入れた成果の一つとして、女性採用の増加があげられます。企業を評価する指標としてジェンダー平等が求められる今、時代に応じた変化を遂げられたことを嬉しく感じております。今後は、男女とも継続雇用できる環境整備を推進することが不可欠と考えております。こうした社内の体制・体質の変化を前向きに捉え、主体的に環境を変えようと努めている全従業員に、改めて感謝しております。

建設業へ視野を広げますと、残念ながら建設コスト上昇や人手不足の影響を背景に、低迷が続いております。さらに、北米向け輸出割合の高い自動車・建機分野を中心に、アメリカの関税措置が最大のリスクとなっており、その動向と影響を強い緊張感をもって注視する必要があると認識しております。ただ、懸念材料をあげれば際限がありません。不確定な事象を恐れるのではなく、局面ごとに変化することを旨とし、粛々と目の前の課題に取り組むことで成果が表れると信じ、今後も従業員一丸となって歩んでまいります。

「持続的成長に向けた取り組み」の進捗についてお聞かせください。

主な取り組みとして①人材確保、②海外展開、③サステナビリティ経営についてご報告いたします。

業界の人材不足は深刻化が進み、依然として大きな変化は見られておりません。溶接工事はお客様からの高いニーズを維持している一方で、溶接技能士の人手不足が顕在化。対応力の限界を感じるに至りました。そのため、まずは人材確保、特に溶接技能士の採用・育成に注力しております。あわせて、新たな取り組みに挑戦する風土づくりにも継続して取り組んでおり、その成果は着実に成長を遂げております。

異業種から中途採用した溶接技能職転職者か

ら「とても楽しい」という声を直接聞けたことは、私自身の喜びであり、希望を感じる経験でもありました。金属をつなぎ、形を創る楽しさ、モノづくりの原点に立ち返り、溶接技能職の魅力を知ってもらう方法が必要であり、それが人材不足を解消する一手になると固く信じております。積極的な採用活動の成果として、溶接技能士をはじめとした従業員の採用数は順調に推移しております。この状況を維持しつつ、多様性を受け入れる風土の醸成を浸透・定着させてまいります。

2つ目の海外展開も着々と進展中です。これまではタイおよび中国の子会社を通じて自動車関連事業に特化してまいりましたが、現在は市場成長に限界を感じ、昨年から溶接サービスを新たに加えることで事業領域を拡大。更なる成長を図る方針といたしました。さらに、タイ・中国に加え、東南アジア諸国やインドへの販路拡大を見据え、営業・マーケティング活動にも取り組み始めております。近年中にグローバル展開を加速させ、持続的な成長につなげていく予定です。

続いて、サステナビリティ経営についてのご報告です。当社ではESGマテリアリティの特定を実施いたしたのですが、当社だけで解決を目指すべき課題ではないのではないか。そういった感覚が正直な印象です。例えば、当社で扱う鉄をすべてグリーン鋼材に切り替えた際、そのコストをお客様が受け入れられるかがポイントです。当社だけで対策するのではなく、経済状況と協調しながら経営してまいりたいと考えております。今は堅実に、これまでと同様に「設備の再生・延命」を当社の溶接材料と技術で顧客の課題を解決してまいります。また、多様性の推進、地域貢献、透明性ある経営体制にも引き続き対応してまいります。

今後の見通しと、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

世界情勢の変化や原価高の影響がある中、当社は飛躍の種を蒔いてまいりました。

今年度は、機械加工工場を福山に設立し、溶接材料設計製作、溶接工事、機械加工までの一気通貫施工体制を整えました。まずは溶接に関係した



機械加工を主体としながら、将来的には、溶接に関係しない機械加工品の拡販にも取り組んでいく予定です。レーザー溶接機を活用した材料開発や工事技術開発に加え、ロボットによる施工技術の開発に力を入れる計画もあります。また、社内で開発した環境関連装置技術を溶接工事技術に応用するなど、他部署間での技術連携も推進してまいります。

自動車メーカー各社の需要は、アメリカの関税措置の影響を受けながらも維持されるものと見込んでおります。また、重工メーカーからは、GTCC(ガスタービン・コンバインドサイクル発電)や原子力といった電力関連分野における需要拡大の動きが伝えられており、今後の成長分野として期待しております。

当社を取り巻く経営環境は、不透明さの中に回復の兆しも見えている状況ですが、私たちは一喜一憂せず、これからも経営理念である「景気に左右されない経営基盤」の構築を粛々と実行してまいります。従業員が安心して働ける職場環境を提供しながら、「技術のトクデン」というプライドと「設備の再生・延命」をキーワードとした、顧客ごとのニーズに応じた細やかな提案力で、新製品や新技術の開発に力を入れて、増収増益に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、当社グループの経営に変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NEW TOPICS

持続可能な社会の実現を目指した取組み

当社は、「古着deワクチン まごころプロジェクト」(日本リユースシステム社)という“まだ着られる古着をポリオの不活化ワクチンに変えて、世界の子供たちに提供する”というスキームに参加しております。社内からはもちろんのこと、社外からもまだまだ着られる衣類を集め、ポリオの脅威にさらされている子供たちに不活化ワクチンを届ける活動を積極的に支援してまいりました。

中でも、当社がスポンサーを務めております女子バスケットボールチーム「姫路イーグレッツ」と共同で開催しております古着回収イベントには、ご参加いただける方も日増しに増え、その結果、これま

でに475本分の不活化ワクチンを届けることとなりました。

当社は、企業活動をするにおいて、利益の追求や経済的な成長だけでなく、地球環境への配慮や、社会への貢献など、ステークホルダーの皆様からの要請に対し責任を果たすことが、企業価値の向上につながると考えています。

今回ご紹介した取組み以外にも、当社は社会貢献に積極的に取り組んでおります。当社のコーポレートサイトでは、常に情報発信しておりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き当社へ多大な関心を賜りますよう、お願い申し上げます。

当社がスポンサーを務める女子バスケットボールチーム姫路イーグレッツと共同で、古着を回収するイベントを、Wリーグの公式ホームゲームで実施しております。



当社コーポレート
サイト
CSRブログ



会社概要

(2025年3月31日現在)

会 社 名	特殊電極株式会社 TOKUDEN CO., LTD.
設 立	1950年1月26日
資 本 金	484,812,500円
本 社 所 在 地	兵庫県加古川市平岡町土山899番5
主な事業内容	特殊溶接工事の施工、特殊溶接材料の製造販売ならびに 各種産業用機械装置等の製造販売を主な事業としております。
従 業 員 数	247名

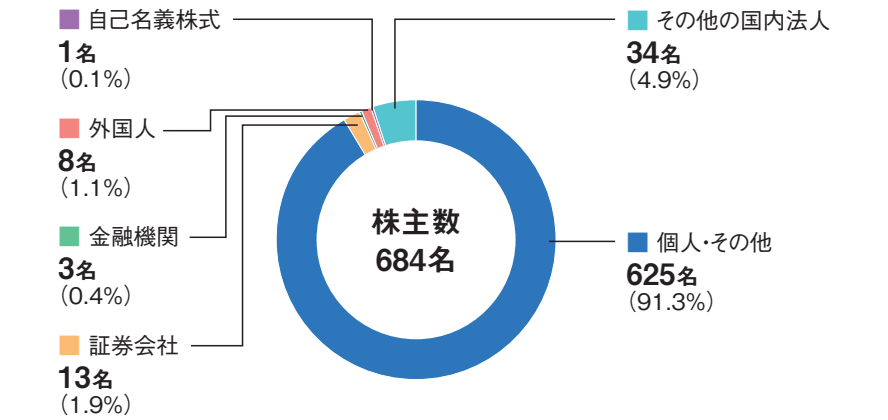
株式情報

(2025年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	5,208,000 株
発行済株式総数	1,602,000 株
株主数	684 名

所有者別分布状況

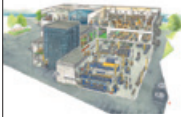


大株主(上位12名)

株 主 名	持株数	持株比率
株式会社UH Partners 2	156,400株	9.89%
光通信株式会社	134,100	8.48
特殊電極従業員持株会	119,800	7.57
株式会社UH Partners 3	110,100	6.96
大野 昌克	34,000	2.15
坂西 啓至	34,000	2.15
宮田 純子	34,000	2.15
福田 博	33,600	2.12
特殊電極取引先持株会	31,000	1.96
坂本 浩司	30,000	1.89
株式会社関西みらい銀行	30,000	1.89
株式会社みなと銀行	30,000	1.89

(注)持株比率は、自己株式(21,039株)を控除して計算しております。

※この年次報告書の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。



表紙イラストについて

画家・網本武雄氏による「特殊電極株式会社 本社・本社工場 見取り図」です。イラストならではの表現方法で、本社・本社工場を描写しました。1階には製造現場、2階には工場事務所、3階には本社事務所がある様子を感じていただけることと思います。

役員の状況

(2025年6月27日現在)

代 表 取 締 役 社 長	西 川 誉
取 締 役	島 田 宏 亮 工事営業本部長
取 締 役	畑 博 康 第二営業本部長
取 締 役	小 金 丸 明 人 第一営業本部長兼第2営業部長
取 締 役	片 岡 達 哉 管理本部長兼経理部長
取 締 役	阿 比 留 宣 栄 本社工場本部長兼業務部長
取 締 役 監 査 等 委 員	河 野 裕 行
取 締 役 監 査 等 委 員	濱 田 雄 久
取 締 役 監 査 等 委 員	島 田 忠 彦

(注) 河野裕行氏及び濱田雄久氏は、社外取締役であります。

配当方針・実績

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題の一つと考え、経営成績の状況、今後の事業展開等を勘案して、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。配当金額につきましては、DOE(連結株主資本配当率)2%を目処に配当を実施してまいります。

	1株当たりの配当金		
	中間	期末	年間
第75期(2022/3)	18.00円	18.00円	36.00円
第76期(2023/3)	18.00円	28.00円	46.00円
第77期(2024/3)	44.00円	48.00円	92.00円
第78期(2025/3)	46.00円	51.00円	97.00円
第79期(2026/3)	50.00円(予定)	50.00円(予定)	100.00円(予定)

株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日～翌年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 確 定 基 準 日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当 9月30日
単 元 株 式 数	100株
上 場 取 引 所	株式会社東京証券取引所 スタンダード市場
株 主 名 簿 管 理 人 及 び 特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
株 主 名 簿 管 理 人 事 務 取 扱 場 所	大阪府大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
郵 便 物 送 付 先 (電 話 照 会 先)	大阪府大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
公 告 方 法	電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。 ホームページ https://www.tokuden.co.jp
未 払 配 当 金 の 支 払 い に つ い て	株主名簿管理人である 三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。



特殊電極株式会社

本 社 兵庫県加古川市平岡町土山899番5
TEL:078(941)9421／FAX:078(941)9422
ホームページ <https://www.tokuden.co.jp>

